技楽拾葉集 改正

伊地知文庫
文庫20
361
8

伊地知氏書冊

扶桑拾葉集巻第三十

目錄

大嘗會記
春日社參記
神武天皇御陵記
新撰菟玖波集序
續古今和歌集序
清少納言枕草子跋

作者 丁孝

能勢文庫

文庫20
361
8

宇治拾遺物語序

艶詞

同

同

拾葉集巻第三十

大嶽舎記

作者可考

永和元年十月廿八日天皇鴨河の幸しく大嶽
舎力神供九多の稲
幸といふ上古小鴨河
来おくれ流を掘
ず宮司ら行幸
後房朝所を御所
園暁天皇
宮方朝臣

こなるく千宮をし
て鎌倉殿とうち
く集束刻る関白秀
をうれ上箱四人さん
さめ前駈ハ下はの
ととをを例松
路をうれさまる
右大臣文をうる
治府長一人すくを
ひをはくろうる
れうて

奉人、おうをさうる
ど先箭ありく也
た代内侍御劔
うる大殿御後
後房北南ど風筆
将か将御典
為く陣をくる
る慢門の
をうる右
北の御
うく鈴

内侍二人たる
例石たれ方
をはを錦
随所花
右れ方
二御正庭
置ちれ
鈴参い

累代ノ霊物ニ
御幸ナラセラレ候テ
スルドモ羂使ニ
劔ナド勒ロ大刀
ニヲヨビ候ヒシカ
劔ニテ云々サレ候
実トテヤセ
事ナドヲ
ヲヨビ候ハヌ
御刀ニテ大炊御
ヲハセムタノ
但当家ノ
龍ニテ御劔
ヲ秘ノ
ヲサムルヲ
ヲヨビ候テ
ヲヨビ候ヒシカ
劔ナド勒ロ大刀
ニヲヨビ候ヒシカ
劔ニテ云々サレ候
実トテヤセ
事ナドヲ
ヲヨビ候ハヌ
御刀ニテ大炊御
ヲハセムタノ
但当家ノ
龍ニテ御劔
ヲ秘ノ
ヲサムルヲ

東市司　佑藤原光徳
左京職　亮源兼助
　進和気行豊
神祇官　権大副大中臣實直
　少志安倍遠廣
弾正臺
巣人司　正中原康隆
同次官　式部権大原倫副
尉中原章頼　使
　五位
坂上明宣　使
坂上滿明　市
源氏信　海老名
次弁司判官　式部少丞紀
　重弘

西市司　佑安倍遠範
右京職　亮源継豊
　進宗岡興尚
梁司判官　中務主和気助有
太政官　左大史高階秀職
　右大史三善家連
次弁司主典　中務録紀貞久
左衛門府　督代宮内卿藤原伊能
　権佐藤原経重
中原章親　使
　五位
源義季　武
　官
藤原詮秀　勝田
左兵衛府　督代敦位平時成
　権佐藤原家房
次弁司主典　式部録和気弘元

同長官　権中納言藤原尚房
兵庫寮　頭和気常成
権弘記　中原師胤
侍醫　清原尚頭
　丹波業康
　和気郎成
侍従代　木工頭和気房成
右馬寮　内蔵助和気仲繁
　助藤原孝継
大刀禰

陰陽寮　偏倒博士賀茂在弘
　大内在後
少納言菅原秀長
外記局　権頭源長継
　少内記紀職景
中務省　内舎人和気弘景
左馬寮
内記局　藤原公定　源通氏　多忠之時
少納言平棟信

弁卿　権大納言藤原公永
　侍従参議藤実冬
右辺衛府　大将藤原師嗣
　少将藤原師範
左辺衛府　大将代参議右中将多忠雄
　少将藤原為尹
後陣　中将多原久家　中将多原冬家　中将多原隆廣　源顕英
　藤原実直
　藤原秀無
　藤原範茂
　藤原敦冬

八蔵人　左少弁藤原俊任　勘解由次官平知範
非蔵色　中務丞菅原長遠　式部大丞藤原永行
　　源康定　　菅原為守
主殿寮　允伴守春　安倍親量
右兵衛府　錄伴安方　中原職富
同判官　弊代敬位　允源助尚
同主典　兵部錄和氣豊依　兵部丞補平知章
縫殿寮　允平廣行　允伴康光
大炊寮　允清原岡卿　錄源為宣
右衛門府　弊代刑部卿藤原為数　佐菅原言長　奉膳高階清康
沢才司主典　権佐藤原資敬
　　兵部錄和氣助久
御路大宮を南へ二條をもんとうへ京極とおへ　開白殿　出納　掃部寮　沢菜司長官　多議右兵衛督藤原顕保
　　同次官　兵部少補平知章
　　図書寮　允伴康光　錄源為宣
　　内膳司　奉膳高階清康
　　沢才司判官　民部少丞崇圀行春

二條をとおへ河原北頭まで川を東をゝて見物せらるゝ事文徳天皇の例を御興すなく後陣より供奉をもれ御膳をも御敬慮御膳を供をんうため御敬慮の幄を御膳の幄をもて西方なる日ゝ著御するにより百子帳をもて真ゝ御敬これ百子帳といふことをゝ高帝百人をゝ宴らるゝをはくるゝまゝ百子帳とゝ御謂宮廬乃名なり真後御帳を水ゝ陪膳菅人次長家朝臣請御敬礼奉ゝ沢御

秘抄ヲ神祇官大麻ヲ学テ卜占ヲ兼ネ
初ヨリ一向諸卿ニ超ル秩ヲ授ケ給ヒ
河流ヲ汲ム名蔵前ニ超テ権ニ任ジ
事ヲ執ルニ及ンデ寛弘一條院ヨ
御禊大将ヲ勤シ奇異ノ例ヲ開キ
ヲ以テ献物ヲ署スヘキヨシ石大弁ニ
ニ又寛和乃例ヲ始テ風簫
ヲ奉ラレ勝栗ヲ両度ニ供ヲ
ヘナル今ヲ小弁
ヲ以テ家御門ヲ
ヲ以テ行列ヲ
ヲ以テ官司ノ後房ヲ
ヲ以テ官司ノ幸ヲ
ヲ以テ天皇拝ヲ
ヲ以テ大嘗会ノ経営ヲ
ヲ以テ官司ノ幸ヲ
ヲ以テ大嘗会ノ
ヲ以テ五節ノ舞姫ヲ

者器よりまいりて殿上人なともまゐり儀式ども侍従中納言の時蔵人權右少辨資教五節をなす五の所ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵

后町北廊ニ列立テ郢曲ノ人ニ
たらせたまひてあそばし下賜ありし礼
舞ありし蔵人頭宣方朝臣書ヲ北門ニ立
テヲ奏をあそばす方蔵人頭をとりて
を宣方朝臣に授くるもとのごとくこれ
ハ蔵人頭をとりてなす役なりまたて
還御ありし御給ハ従廊ニ立テ正廊乃北なる
五節所ニ入ヲ給ふり還御ノ入セたまふ
天子ハさしぬきをめさるをとりて
ヲ給ふや殿上人ニ
後鳥羽院ノ時ハ此ノ事ハ停止ありし時ハ

ニ御さしぬきをめさるをとりて
給ふ

十一月二日乙卯晴 寅乃日ノ参ル先参上ス御酔
ありしかバ殿上ニ人ヲ召ありしかバ頭中将隆房朝臣 正四位下 蔵人頭 参議 従三位 権中納言 兼 春宮大夫 皇后宮権大夫 左衛門督 検非違使別当 正三位 楊梅中将
宣時朝臣 正四位下 蔵人頭 参議 従三位 権中納言 兼 春宮大夫 皇后宮権大夫 左衛門督 検非違使別当 正三位 楊梅中将
義人左少辨後任 春宮 蔵人 右少辨 経重 春宮
蔵人権右少弁資教乃 右兵衛佐 資行 従五位上 検非違使 楊
梅少将兼親 正四位下 蔵人頭 参議 従三位 権中納言 兼 皇后宮権大夫 左衛門督 検非違使別当 藤原永行 右兵衛佐 従五位上 検非違使
橘和季 正四位下 蔵人頭 参議 従三位 権中納言 兼 春宮権大夫 左衛門督 検非違使別当 蔵人中務丞 菅原長遠 従五位下 検非違使 永

厳上村庄の松くろ
石大臣殿上の
里すそうきて
ゆふこれ
雅兼朝臣歓
事こそふくろ
やり三献
義人領
そくくろ
雲山乃白
くて廊
腐もと
戸義人領再
もふ後房
戸もち所
ひろう五節新
うきおし
八五節
うやそ後大
拝参
まふくろ

忠光藤中納言保光侍従中納言時光等
参議中御門宰相資明朝臣一人さふらはれ
ねんごろに叙位の儀行はれ悠紀主基の大嘗会の供奉
おつとめ人々には位をおのおのさづけ給ひ御前の儀
おはりて後庭乃ひさしに屏風
をたてまはし大床といふもの
みそかをうつし
（後席略）
殿上人をたちゐんさうの
ごとくにつらなりやしきの
廣坐に脇戸より出て
こゝにて殿上人をもてなし給ふ
こと
同廿二日卯の日の大嘗会の神事
ことなく
しこしめしをはりて又歌よの酒宴
ありこゝにて
は仲光朝臣
又伶人
なども
多く
参りつどひ
ぬ
多くはさうしの
ことなり
廿三日辰の日の大嘗会の神事
ことなく
しこしめしをはりて又歌よの酒宴
ありこゝにて
は仲光朝臣
又伶人
なども
多く
参りつどひ
ぬ

次御輿

次將　左親権朝臣　守教朝臣　實宣朝臣
　　右基明朝臣　仲朝臣　資守朝臣　宗春　季子

大指殿ハ御前ニ候ス　今日ハ御出ナシ　御輿ヨセ奉ルトテ
うつゝ也ト云ヒ　今ハ御出ナシ　就尾垣ヨセ奉ルトテ
そのゝちをなほし　昔ハ廻立殿ヘ入御ありて
しうほうを給なと御出ありしなり　昔ハ内門ヨリ中ノ御
門ヘ御輿ヨセ奉ルトテ　廻立殿ヨリ南ノ御輿ヲヨ
せ奉ルなり　御輿ヨセ奉ルトテ　廻立殿ヘ入御ありて
しき　殿舎人ハ　御輿ヲ　いたゞきて
ろうとうやなとハ　御輿ヲ後ニ御湯ヲ
さゝけ奉ルなり　方弁ニ御湯殿ノ　蔵人頭宣
をとりて　御輿ヲつゝむ　六位ヲ山蔭ヨリ流
もてこれ　ヲ　ヨリ　御野ヲ
するなり　御衣ヲ　御野ヲ
さゝめき　御湯ヲ
ける　御装束ヲ
ての　ヲ
下ヲ　御装束
ル　装束ハ　二ヲ
言勅仕ヲ　代ニ

秘事口伝をも伝うる人なき紀となり
ぬ装束も一式揃うてお御供を廻立殿よ
り悠紀の斎殿まで行列をなし参道をも
てかりんまで行列をなし参道をも
くこれを前行の
列伍を整頓するや主上大御
中より親王諸卿を
ますまさに
やうなりのあるを
御さまなり悠紀の大嘗宮を入給
て旧へ入ふ大臣八退くに悔の面もさまぬさ

ひくれする行事をさのこハ
悠紀の斎場より
斎殿の中へ入
の役をうく祓
ふるまひなれ
斎地祇を天
伝をなく
なれ
あく
を代
ふるまひなれ
斎地祇を天
伝をなく行ふ
なれ
あく
を代

時中院大納言通西園寺大納言
大納言忠克洞院中納言公定勝中納言保光三
條中納言実冬土御門中納言定輿侍従中納言時
仲光朝臣洞院前内府実守親雅実宣勘解由右衛
門督朝成白書此節大内記
秋泉花を唐人あらそひ昔
おもひのまゝかゝせ物
朝臣さま〴〵の事を尚直
む詩歌ともさま〴〵
かゝるこゝろをなをもとめ養ひ
神祇乃余を養朝乃称
号日解称をの
ゐらん物を御
く侍とおもひ
四辨御帳
してまつる関白
宗泰これをさゝ
これをもつて又風
人衆を養ひ
まつる常に節会

季興朝臣資守朝臣信俊朝臣師実高輔
葉前兵部卿葉室頼和琴大納言師頼卿
御弟楽人五位雅楽頭
[illegible]
納言実高琵琶前右大弁宰相中
将基隆笙
大納言師頼卿
[illegible]
[illegible]
[illegible]

秋天氣

秋北儀

秋植物

秋植物

秋動物

秋雑物

秋人事

ひさうくうつくし松まとをゝてたゝく
花をみつけてふめりのやうふ大和撫
乗乃里をとゝやさしくも乃夏をはく〳〵亭
そゝをゝ田まなゝ乃刻をゝみ乃をゝ
ゝ還御たゝまつる御前をゝ又乃をゝ
人ゝをゝふまゝそれおわりん あゝしさま
れ和乃なゝ名ゆ乃つゝやさうつさいく
めくりをゝなゝ松おおく成てゝまこゝさ
ゝて酔つちなゝみゝもおかゝくそ伝
うゝとゝすゝろうゝたゝやめていさこ
乃つゝさゝまゝいて興おりうゝ

廿九日のふゝまれ吐ゝを志ゝ少ゝ山坂ゝ
ふゝいつゝあいうゝを花乃都ゝうゝつゝま西路
乃みゝまれゝくゝしゝりれゝさいつゝおれいゝ
うおゝゝゝをゝみゝまゝ乃ゝゝおれつゝおれいゝ
ゝなゝ乃都ゝゝゝなゝゝおふうゝ宮居
ゝゝ志ゝ西やゝすゝゝくゝれゝを御ゝゝ
出ゝゝこゝつゝゝ伏見ん指月とゆゝおゝて
ゝゝゝ

宰相中将右大弁宰相など光氏九中弁
みてまゐりぬ八中弁家俊経盛為度
多田冷泉かわ右かわ右兵衛すけ兼頼後量綾小路侍従などいる
さうして六七輩やらん色々乱れ装束と
もをして乃ちうくとおさうなへめさま紅葉
無双の宮ぬ此川をもうしかうをもつ
ろとまゐる朋日よりはさまくれ為すをはてさうへさ

こうとうく色付きもちこうをもつ
山乃本紅葉をなく久日をへ秋
れくおうこの秋
とうへおうおいなれもの山も色
ものうく日数をへ指乃御いもも
なすまれあるれ
しもおんはうをおれるれ
ひとをはうをはてうをはてうをはて

同

大納言
岡白右大臣
ひさし大納言
こう此花前大

もろ甘殿　迎陵花の岡白
さいを大将　さいを大納言
まて桜路の雨大納言
かん中納言

なかせられ中納言
陽を光れ羽花

殿上人

くらせられ宰相中将

大納言　宰相中将　近衛大将兼右大将
内大臣　儀同三司　右大臣
関白　儀同三司
枇杷殿
大炊御門大納言　三条大納言
左大弁宰相中納言　民部卿
殿上人　三条宰相中将

初雲雨

梅風

松茂

[illegible]

[illegible]

部立

[illegible]

[illegible]

[illegible]

橘薫花

[illegible]

[illegible]

細源

[illegible]

[illegible]

[illegible]

海邊月

[illegible]

廣橋綱光

秋田

[illegible]

九条大臣兼孝

紅葉

[illegible]

左四源宰相中将行

[illegible]

朝雪

[illegible]

烏丸前亜相光

[illegible]

暮月

[illegible]

三条宰相中将公勝

[illegible]

竹雪

[illegible]

寄風恋

[illegible]

雅康

吟
寄水恋　　晴光
寄岩恋
寄川恋　　公保
寄鳥恋　　雅親
寄古松を恋
寄木恋
寄鳥恋　　無染法永法
寄山恋
松歴年　　雅親

旅行

寄題祝

法名を懺悔
向するまでもなく大師の教起を感し
く重きを以て歳
ゆくを忘るるをなく忘るるに
風爾のごとくして二季のつとめてあり
仏祠のうちにして四時の師をなむるなり
もって叶法名懺法のごとくなれやといつつ
なるよりも文和のおんとしのかたくめて
衆を発し一つの小庵康暦まえ
しめ彼御遠忌のさらに武甚さらをそ
へくりをなくなるをいはし永
永享にまたひなさと文安のちかきいく
ゐまでに若ほうしてまたうしろ安はらずともいふ
しや京勝諸寺の如なるまれ
まくの如なるまれ
ともちの記世をそ
さて久しきれ
なる鳥の話よりの
れのほとめてあれをいまそこ
てす衆の代まで歳市の儀式
さ色よりもて師法とり給へ
そ仏院まで十ともあこそを

三宝礼をいたすを
[illegible] 東掾参し沢敬礼の旅礼相
沢の東藤谷二帖し沢は眼再興二旅[illegible]
て同急残乗二変笔八御下化既題武部[illegible]
みこと笔後量胡長曾業安倍季継なも
まうらうと書しくまのこうとて乗れ出さる
おのまをを[illegible]
吉野三根四條なしてきて又東白松妙東中
院一位国前中納言元長胡長二条前宰相
也沢純旅行通まも[illegible]
て俗俗在のまま[illegible]

俗従中納言すみやかにて御庭のまれ出屋
をそくまれなくすることすくちすこと出くる
智海ますまれ篇をもとれてくまをもて
まくまる在のまま[illegible]
事書いを相撲すま方会俗をいこと
すみいく宴儀俗[illegible]
ますぬ例まこのもちくまの多俗いて
まそまそまる仁れ出ちまの多俗いて
まけさやうまこと花筥ま丸さ
うのいすれ[illegible]
法のまい事[illegible]

初長忠彩雲次豊羽に九ヶ所後石右
衛門佐宣秀大将飛後治ヶ大納言光大
納記点取おや調琴家慶法師なし調子無
律調子や檢法先博士とうとく眼再晃
のこ依独行き曲をとし彼枚のかよう
ここあるまも之の物ちうきおりをう
ちうふうすや悲歎のこ肝まめりてこの
ううくこかれ出ぬなみさきを
もをうこうとうとおこれうすのうち
独ぬれおろんうこうをはこと西いなへ
させおさまをもう絶法ま師

行道のこ康暦れ二日おを行ふる
ゆる御行道ま事ふ例とそ記く雨
行れ曲のまやふを故文社
事をとて出師なうく湯殿早
檢法宗秀律師調琴
慶憲律師調琴
儀入御御下臨ふ
くて依宣の
御ふ出御
をくふ花筵
檢法

御懇法まで仰かく七ヶ日なるをこゝ
比九ゝまでのうちをおなじ松四ツの日をおなじ
ゝそのおもんまいらせんとなりこゝろ
さるゝ出家なるゆへをうくるをかな
いおくるものゝやうにをなれ仰ゝやまゝ
ゝ乃世となりて心天魔ゝさまを
す後のまもをよしもへこゝ事ゝ仰れ
をもいゝもしゝのさまいゝそのゝ
しのゝゝ事ゝまゝを結願

さゝゝゝゝゝまゝ
をゝし号御杖早懺法一死かり
三宝礼敬礼仏ゝ調ゝ良秀法ゝなを
和ゝゝ文明八年四七廻ゝ花山僧
ゝゝさゝゝ程ゝ師ゝ法ゝをて
ゝ礼拝ゝ事大国なゝ易ゝを
ゝゝさを仰ゝ一派ゝ師恩志
ゝて何ゝんやゝゝ敬白ゝ
へさゝゝゝゝゝ
花ゝゝ私のゝゝ
ゝゝ会なゝ胡

矢れ三昧をもとして同放心悔をもとて
十天乐沢経昨初新
戒まち偏ま接新
大納言景房朝臣大林宗俊安信季高
なをさまざまの
陀二行をまとめ
ら称ふる御歌まち
をもとて
まとめ
ふ紀まち
宝地まなる
ゐなる御法なり

すべきかねてより
うまもとる大法
へる紀る頻
まもそるせ
友をとなれ
良渕大法師なを
ばもとまれ
おおい慨悔まして
さまはさまのり
りていと志やう
すべきかねてより
うまもとる大法
へる紀る頻
まもそるせ
友をとなれ
良渕大法師なを
ばもとまれ
おおい慨悔まして
さまはさまのり
りていと志やう

新撰菟玖波集序

同

続五明題和歌集序

同

清水納言松帆子跋

同

松帆子八人毎に拾ふ
ものを世にいでたるものこゝろさしふる
言ふれと能因の本とこゝろ紀貫
とゝもにこゝろ紀貫
ものを紀貫
ようそてそれさ
うゆゝなのゝなく
くおろさ
一ふし文

宇治拾遺物語序

同

艶詞

同